

## 忍者

忍者其实就是间谍，是日本历史上真实存在过的人。过去，日语里把忍者称为“忍び”，不过现在通行的说法已经变成了“忍者”。

忍者发挥着间谍的作用，在旧时的战争中不可或缺。正因为他们是间谍，所以忍者身上藏着许多秘密和谜团。忍者的起源至今不详，从历史上看，忍者从15世纪到17世纪初最为活跃，那时日本正处于战国时代。

距今500年前，战国时期的武士在战场上张弓舞刀，堂堂正正地和敌人作战。那时的武士是一个享有特权的阶层。相较之下，大多数忍者地位都比武士低，必须听命于武士，负责在战斗开始前潜入敌方的领地。

那时的忍者会进行一些职业伪装，他们选择的职业往往需要从一个地方辗转到另一个地方，这样不容易引起其他人的怀疑。比如，他们会伪装成僧侣、行商或者走街串巷卖艺的艺人。当时还有一些女忍者“くのいち”，她们会把自己伪装成神社的女祭司、妓女或者侍女等等。忍者的任务就是收集情报，并在战争爆发时潜入敌军内部从事破坏活动或进行暗杀。在16世纪，日本战国时代的领主“大名”，比如武田信玄、织田信长和德川家康等人都使用过忍者。

忍者在日本各地都出现过，其中最著名的应该是伊贺忍者和甲贺忍者。伊贺和甲贺两个地区紧挨在一起，也就是现在的三重县伊贺市和滋贺县甲贺市。开创江户时代的将军德川家康手下的得力干将服部半藏，正是一名伊贺忍者。

17世纪进入江户时代后，日本迎来了一个和平的时代，不再有战争。效力于江户幕府的伊贺忍者和甲贺忍者，主要负责潜入地方领主“大名”的领地侦测谋反的迹象，或者发挥忍者特有的武艺保护幕府要人等。1638年“岛原之乱”结束后，不管是武士还是忍者，都没有了实际参战作战的机会。结果，市面上就出现了一些介绍武士和忍者战斗技巧的书籍。其中最著名的就是1676年写成的《万川集海》。书名的意思是：一万条小河汇聚在一起，就可以集成一片汪洋大海。这本书收集了日本各地的忍者所使用的绝招，并参考中国古代的《孙子兵法》《六韬》《三略》等兵法，介绍忍者的心法和技巧。

《万川集海》的《正心》一章里有这样一句话：“それ忍の本は正心なり。忍びの末は陰謀佯計なり。”意思是：忍者最宝贵的乃是一颗正直的心，那些所谓的伪装和潜伏等技巧都在其次，不过是末流的雕虫小技罢了。

另外，这本书还指出：“此の道を業とせん者は最も顔色をやさしく和らかにして、心底尤も義と理を正しくすべき事。”意思是：一个以忍者为业的人应该尽可能地保持柔和的表情，也必须将“义和理”牢牢地记挂在心头。正因为忍者是行欺诈之术的间谍，所以必须有一颗善良、公正的心。如果一个忍者没有一颗正直的心，那他就会变成一个盗贼甚至恐怖分子。这便是《万川集海》定下的信条。

后来，1868年江户时代走向终结，忍者这个职业也不复存在。忍者的子孙后代开始从事普通的职业，过上了普通人的生活。不过同时，也有一些学者把忍者的格斗技巧当作武术传授给别人，或者将其发展成了一门学问，专门研究历史上真正存在过的忍者。

2017年，位于伊贺忍者的故乡三重县的日本国立三重大学成立了“国际忍者研究中心”，致力于对忍者进行学术研究，希望通过解读古文书或进行忍术试验等方式来揭开忍者身上数不清的谜团，还原历史真相。

在现代的一些文艺作品中也会出现忍者，比如《火影忍者》，里面的忍术是虚构的。不过，主人公漩涡鸣人是一个比起战斗，更希望通过与对手“对话”并“宽恕”对手来寻求和平的人。这样的人物形象非常符合17世纪的忍术书《万川集海》，正是书中所强调的“正直的人”，信守“义和理”。

如果大家能了解一下历史上真实存在的忍者，或许在观看动画、漫画、电影和电视剧等作品时会觉得更加有趣。

《加藤老师来开讲!》是NHK日本国际传媒中文广播节目《波短情长》中的小栏目，特邀日本明治大学教授加藤彻深入浅出、诙谐幽默地讲解日本文化。您有没有想要了解的日本文化或习俗？欢迎给本节目来信或留言！



## 忍者

忍者は、昔の日本に実在したスパイです。昔の日本語では忍者を「忍び」と言いましたが、今は忍者と呼ぶのが普通です。

忍者は、昔の戦争に欠かせないスパイでした。スパイという性格上、忍者には秘密や謎が多い。忍者の起源は不明ですが、歴史上、忍者が最も活躍したのは15世紀から17世紀の初めまで、日本の戦国時代でした。

今から500年前、戦国時代の武士は、戦場で弓や刀をふるって公然と戦いました。武士は一種の特権階級でした。

一方、大半の忍者の身分は武士より低く、忍者は武士の命令を受けて、戦いの前に敵地に潜入しました。忍者は、各地を移動しても他人から怪しまれない職業に変装しました。例えば、僧侶、行商人、旅芸人などです。女性の忍者(くのいち)もいて、彼女らは巫女や遊女、侍女などに変装しました。忍者の任務は情報収集でしたが、戦争のときは敵陣の内部で破壊活動や暗殺も行いました。16世紀の日本の戦国大名、例えば武田信玄や織田信長、徳川家康らは、みな忍者を使いました。

忍者は日本各地にいましたが、特に伊賀忍者と甲賀忍者が有名でした。伊賀と甲賀は隣どうしの土地で、現在の三重県伊賀市と滋賀県甲賀市です。江戸時代を開始した徳川家康に仕えた服部半蔵も、伊賀忍者でした。

17世紀、江戸時代になると、戦争のない平和な時代になりました。江戸幕府に仕えた伊賀忍者や甲賀忍者は、地方の大名の領地に潜入して反乱の動きを探ったり、忍者特有の武術を生かして要人の警護などにあたったりしました。

1638年、「島原の乱」が終わると、武士も忍者も実際の戦場で実戦体験を積む機会がなくなりました。そこで、武士や忍者が戦う技術を書いた書物が作られるようになりました。なかでも、1676年に成立した『万川集海』は有名です。書名の意味は、一万本の小さな河川が集まって大きな海になる、です。日本各地の忍者の秘伝を集め、古代中国の孫子や六韜三略など中国の兵法も参照し、忍者の心得や技術を説明しています。

『万川集海』「正心」の章には「それ忍の本は正心なり。忍びの末は陰謀伴計なり」とあります。忍者で最も大切なのは正しい心であって、変装とか潜入などの技術は忍者にとって副次的なものにすぎない、という意味です。

また「此の道を業(なりわい)とせん者は最も顔色をやさしく和らかにして、心底尤も義と理を正しくすべき事」とも述べています。忍者の道を職業とする人は、なるべく顔の表情を柔和にして、心の中で義と理をしっかり守りなさい、という意味です。忍者は人を騙すスパイだからこそ、やさしい正義の心を持たねばならない。もし正しい心がなければ、忍者はただの盗賊やテロリストと同じになってしまう、というのが『万川集海』の戒めです。

1868年に江戸時代が終わると、忍者という職業は消滅しました。忍者の子孫は、普通の職業について、一般市民として生活するようになりました。その一方、忍者の格闘術を武術として教えたり、歴史に実在した忍者を学問として研究したりする学者もいます。

伊賀忍者の故郷である三重県では、2017年、国立三重大学の中に「国際忍者研究センター」が設立されました。研究センターでは、昔の古文書を解読したり、忍術を実験的に再現したりするなど、謎が多い忍者の実像を学術的に研究しています。

現代の作品、例えば『NARUTO -ナルト-』に出てくる忍術は、フィクションです。しかし主人公の「うずまきナルト」は、相手との戦闘よりも「対話」や「許し」で平和を求めるなど、17世紀の忍術書『万川集海』が強調する「正心」や「義と理」をそなえた人物として描かれています。

忍者についての歴史的真相を知ると、アニメや漫画、映画、ドラマのフィクションの忍者も、ますます面白く感じられるようになります。

「加藤先生の開講コーナー！」はNHK国際放送のラジオ番組『波短情長』のコーナーです。明治大学の加藤徹教授が、日本の文化について楽しく解説します。あなたの知りたい日本の文化や風習は何ですか？メッセージもお待ちしております。

